## Hack For Japan + Code for Japan

# あなたのスキルは社会に役立つ

2011年3月11日の東日本大震災発生の直後に発足したHack For Japanと「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げる Code for Japanのメンバーから、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアができる社会貢献」をテーマにした記事をお届けします。

#### 第92回

## Hack For Japan 8年間の活動を振り返る(2)

● Hack For Japan スタッフ 鎌田篤慎(かまた しげのり) **Twitte** @4niruddha

今年で2011年3月11日から丸8年が過ぎ、東日本大震災から数えて9年目に入りました。我々Hack For Japanではこれまでの活動を思い返し、その関わりを通じて見えてきたこと、自分自身に起きた変化などを議論する振り返り会を実施しました。今号は前回(2019年7月号)に引き続き、本会に参加した13名からの言葉をもとに、振り返り会の中編をお伝えします。

前回では福島県にゆかりのあるメンバーによる、福島にまつわる議論を中心にお届けしました。今号では被災地での交流を通じて、子どもからお年寄りまで広がったプログラミング教育、さらには自分自身の学びについての議論を紹介します。本連載を読まれているエンジニアのみなさんにも、人生100年時代における学びのヒントや、周囲への教育を通じてご自身の学びにつながるような視座が提供できればと思います。

#### 学び続けることが若者への 糧となる

吉岡:私は震災当時は楽天株式会社に勤めておりましたが、現在は定年退職を迎え、専業の学生をしており、博士課程の1年生からこの2年くらい研究をして、博士号を取ることを目指して勉強しています。こうした活動の中で、Hack For Japan にも貢献できるようなところがないか考えていきたいです。

山崎: 震災後、地元で今後も生きていけるのか、働いていけるのかと不安がっている子どもたちにプログラミングを学んでもらう場として立ち上げた「東

北Tech道場注1」は今でも続いています。実は、東北Tech道場に通っていた学生が今では就職して、今度は東北Tech道場の講師になるケースも出てきました。被災地での教育といった取り組みが芽吹いてきたとも言えます。そうした中で吉岡さんが歩んできたようなキャリア、そして今の活動は多くの若者たちにとって参考になる話が多いと思いますし、伝えていくのは大人たちの仕事だと思います。

吉岡:楽天にいたころに「楽天IT学校<sup>注2</sup>|という取 り組みをやっていました。これは全国の商業高校 の高校生たちにインターネット上の店舗のページを 制作してもらうというワークショップなのですが、 各地の高校生も、自分たちの住む土地の物産である とか、その良さを知らないことが意外と多かったの です。しかし、ワークショップの中でインターネッ トを使い、物理的な距離を越えてモノが売れるとい う体験を通じて、自分が住む土地の良さを知ってい くということがありました。我々からするとちょっ とした体験でも、若い人たちにとってはその視野を 大きく広げる体験になるんだなと、そのとき、強く 感じました。東北においても、たいへんな災害では ありましたが、そうした災害をきっかけに広がった さまざまな取り組みが若い人たちの糧となるように 我々もサポートしていかなければなと感じていま す。

注1 http://www.tohokutechdojo.org/

注2 https://rakuten.today/blog-ja/rakuten-it-school-ecommerce-entrepreneurs-j.html

#### **Hack For Japan** 8年間の活動を振り返る(2)

### 振り返り会 Hack For Japan メンバー紹介

今年の振り返り回では、全13名のHack For Japanメンバーが集まりました。本連載の バックナンバーで見覚えのあるメンバーもい るかと思います。それぞれ別々の企業に属し ながらも、各々のやり方でHack For Japan の復興支援活動に震災当時から取り組んでき ました。また、そこからさらに裾野を広げて 防災・減災や開発者支援、IT教育などの分野 で社会貢献に携わるメンバーもおり、Code for Japanの設立につながっています。



山崎 富美 Hack For Japan 立ち上 げ当時はGoogleに在籍 し、東北Tech道場など 担当。普段はフリーラン にもかかわる。現在は Niantic に在籍。



佐伯 幸治 Hack For Japanではコ ピーライティングを主に 災インフォなども運営。



吉岡 弘隆 オープンソースの先駆者 として、ミラクル・リナッ クス等を経て、楽天の技 スとしてWebや紙媒体の 術理事を務めたあと、現 編集制作・コピーライティ 在は定年退職をし、大学 ングに携わっている。減 生として研究に勤しんで いる。

#### 人の行動を変えていくには

山崎:これまで東北の復興支援に公私ともにかかわっ てきた中で見えてきたことは、ただ単に「東北に行こ う! |と言っても、人はなかなか動かないということ でした。そうした中で、今勤めているNianticは「ポ ケモンGO<sup>注3</sup> |で被災地向けのイベントを何回か行い ました。東北でのイベントのほかにも、熊本地震の 復興支援としてポケモンGOでカビゴン注4が捕まえ られるというイベントを行って、たくさんの人たち が復興しつつある熊本の地を訪れました。こうした 行動の変化については可能性を強く感じています。

関:福島県浪江町など、ようやく帰宅が可能になり 始めた土地などもあり、そうしたエリアはこれから 街作りを考えていかなければならないので、そう いった土地に人々を集めるための行動変容につなが る取り組みは考えていきたいですね。

#### 震災をきっかけに育つ未来の芽

山崎: 2012 年からやっている東北 Tech 道場ですが、 設立当時から目指していたのは、先ほどお話したよ うな東北Tech道場で学んだ少年少女たちが、IT業界

で仕事に就いて、再び東北Tech道場に講師として 戻って来てもらうことなんです。そうすることでプ ログラミングという仕事の可能性を、その地域で生 まれた若者が同じ土地に住む若者たちに対して、体 験を通じて伝えてもらいたい。そう思っています。

そして、待望の第一号が先ほどの話に出てきた子 なんです。その子が「私が学んだ東北Tech道場に恩 返しがしたいんです | と言ってくれたときは本当に うれしかったです。震災から丸8年も経つと、こう したことも起きてくるのだと、長く取り組んできた ことの価値を感じた瞬間でもありました。

また、私が真剣に考えなければならないと今感じ ているのは、人々の中での震災の記憶の風化です。 当時は津波の様子など危機感を持って受け止めてい たと思うのですが、震災からこれだけ時間が経つ と、あのときの記憶を鮮明に持っている人たちも少 なくなり、災害への備えにも緩みが出てきているよ うに思います。今後、首都直下型地震なども予測さ れている中で、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という のは非常に危険だととらえています。

#### 震災から生まれた新しい事業と 高齢者教育

小泉: Hack For Japanの中では私が唯一の被災者で あり、自宅が壊れて住めない時期もありました。そ れがきっかけで人生が大きく変わりましたね。地方 のソフトウェアベンダーから独立して、今は海産物

注3 Niantic社のARを活用したポケットモンスターのARゲーム。 https://www.pokemongo.jp/

<sup>『</sup>ポケットモンスター』シリーズに登場するキャラクター。

# あなたのスキルは社会に役立



関 治之



佐々木 陽 Georepublic Japan 社 福島県会津若松のGClue 震災当時はGoogleに勤 CEO。Geo Developer 代表取締役。Android、め海外に出張していたこ として位置情報系のサー iOSアプリ、ハードウェ とから、時間差を活かし ビスを数多く立ち上げて アの開発が主な事業。大 て震災直後のHack For きた。Code for Japan 学生などにプログラミン Japanの活動をサポート。 を立ち上げ代表理事も務 グを教える活動を10年 現在はArm Treasure トバンクにてプロモー 以上行っている。



三廻部 大 Dataに勤務。



冨樫 俊和 震災当時はヤフーに勤め、 Hack For Japanではリ レーションを担当。経産 援活動の中でHack For 省、MRIと連携し石巻ツ アーを企画。現在はソフ らメンバーとして活躍。 ションを担当。



清水 俊之介 株式会社dott CTO。東日 本大震災における復興支 Japanと関わり、途中か 元は絵画修復士だったが エンジニアに転身した。

の販売事業までやっています。これは漁師だった弟 が津波の被害に遭ったことをきっかけに「うらと海 の子再生プロジェクト注5 | という震災復興プロジェ クトを立ち上げたのがはじまりでした。これは今で いうクラウドファンディングのプロジェクトを、ま だ日本にプラットフォームがない中で、すべて自作 して行ったものです。津波の被害を受けた、弟の仕 事場がある宮城県塩竈市の浦戸諸島もHack For Japanで見学しに行きましたね。当時はクラウド ファンディングという言葉も日本では馴染みがな かったので、「一口オーナー制度」といった形で資金 の募集をかけたところ、おかげさまで2万人近い 方々のご支援をいただきました。漁場の復興にご支 援くださった方たちは海産物にも興味をお持ちだっ たことから、お客様としても継続的に海産物を買っ ていただけることで事業化につながりました。

ほかにも、宮城県塩竈市で立ち上げた「Code for Shiogama」の活動として、浦戸諸島の課題を解決し ようという目的で「島ソン」というハッカソンを行い ました。その中で「新しく島の名物を作るためアカ モクという海藻をメジャーにしたい |という課題を 解決するために生まれたのが「渚の妖精ぎばさちゃ ん注6」という萌えキャラなんです。これが人気も出 てきているんですよ。福島第一原発を見学する機会 をいただいたとき、その体験記をぎばさちゃんの漫 画注7として発表しました。

小泉:また、現在は高齢者向けのプログラミング教 育を推進しています。世界最高齢アプリ開発者とし て注目を集めた若宮正子さんも、私のほうでプログ ラミングのきっかけづくりから教育まで行いまし た。これが世界中で話題を集め、高齢者のプログラ ミング学習支援コミュニティ「シニアプログラミン グネットワーク | の運営につながります。また、自 治体からの仕事を受けはじめ、スマートフォンアプ リ開発などの高齢者向けプログラミング教育事業も 始まっています。そうした流れの一環で、現在では 若宮さんなしでも大きく取り上げられるようになり ました。総務省の情報通信白書にも掲載されていま す。シニアプログラミングネットワークの活動も東 京、仙台、名古屋の3都市で実施しており、今度大 阪の方でも始めようとしています。

山崎: 若宮さんは本当に注目を集めましたよね。2017 年のAppleの開発者向けイベントWWDC(World wide Developers Conference) に招待され、CEOの ティム・クックに紹介されたのには本当に驚きました。 小泉:実はそれまでのWWDCでは最年少アプリ開 発者を表彰していたので、最高齢アプリ開発者とし て若宮さんもいけるのではないかと思って仕掛けて みました。また、海外での報道につながったのは 「うらと海の子再生プロジェクト」について報じてく

注5 http://www.uminoko-saisei.net/

注6 https://gibasachan.com/

https://twitter.com/gibasachan/status/ 1132134739769417728

#### **Hack For Japan** 8年間の活動を振り返る(2)



小泉 勝志郎 震災直後は南相馬でアプ はシニアの開発者育成も ブクに所属。 手がける。株式会社テセ ラクト代表取締役。



高橋 憲 震災後に立ち上がった東 リ開発者育成や「うらと 北Tech道場で当初から 海の子再生プロジェクト」 現在に至るまで講師を務 にてIT 関連を担当。現在 める。現在は株式会社カ



石野 正剛 震災直後に福島第一原発 から放出される放射性物 上げ後も「IT x 災害」の開 事に就いていたことから、 質と風向きを地図上に可 視化するスマホアプリ「風 @福島原発」を開発した。



及川 卓也 Hack For Japanの立ち レスキュー隊(IT DART)」 を立ち上げる。現在は 締役。



鎌田 篤慎 震災当時、APIを扱う仕 催や「一般社団法人情報 国の復興支援APIへの提 言や福島のITコミュニ ティ[エフスタ!!]のサ Tably株式会社の代表取 ポートなどを行う。ヤ フー株式会社に所属。

れた米CNNの記者の方につてがあったので、高齢 者によるアプリ開発の事例として若宮さんを紹介し たところ、CNNで報じていただけたのがきっかけで した。それがティム・クックの目に留まって WWDCに招待されたんです。さまざまな仕込みが うまくいっての世界的な報道でしたね。

#### 若者たちへのプログラミング教 音を通じて

**高橋**:私は、先ほど山崎さんの話にも挙がった東北 Tech道場の講師を今も続けています。ペースは少 し落ちてしまったのですが、月に一度は東京から宮 城県石巻市に通う生活をしています。2018年は石巻 だけだったのですが、2017年は秋田での東北Tech 道場の立ち上げや、南相馬で3回ほど講師をしてき ました。そんな形で私の東北Tech道場での活動は 石巻を軸に、新規の道場立ち上げやほかの道場のお 手伝いがメインです。

東北Tech道場の教え子であり、石巻のイトナ ブ注8でエンジニアとしても働いたあるメンバーは、 今では1人の開発者として向き合い、議論できるま でに成長しています。これはこれでうれしいんです が、反面、彼らも自分自身の成長を目指し、より高 い技術を身に付けるために東京に出て働き始めてい ます。そういう点は私自身も地方から出てきた身と

しては共感できるものの、地域に根ざした活動を続 けてもらう難しさも感じてはいます。

山崎: そうですね、そのあたりは難しいですね。「自 分の故郷でも仕事ができるんだぞ という背中をそ の土地の子どもたちに見せられると良いのですが

**高橋**:はい、そうした思いもあって複雑な気持ちで はありますが、彼らの成長は喜ばしく、将来はまた 石巻に戻って新しいことを始めてくれるのではない かと期待もしているので、引き続き応援していきた いなと思っています。ほかにも、石巻に移住した講 師の1人が清水さんの企業に就職しましたよね。

**清水**:はい、うちの会社はリモートで仕事ができる ところなので、石巻からでも働いてもらえます。そ ういう意味でいうと、先ほどの小泉さんの話にも あったとおり、Hack For Japanの取り組みを通じ て、私の会社もそこで働く人たちも、震災をきっか けに良い意味で人生が大きく変わったんですよね。

高橋: 私個人としては東北 Tech 道場の教え子たちが 楽しくプログラミングに触れ、仕事として続けて いってもらいたいですし、そうしたお手伝いは引き 続き、微力ながら続けていきたいと思っています。

山崎:東日本大震災から8年。この歳月は、学生 だった彼らも我々も、人として成長させるのに十分 な年月だったのかもしれないですね。しかし、まだ 復興とはほど遠い地域もあるので、引き続きできる ことをやっていきたいですね。**5D**